

平成28年度「埼玉学園大学公開講座」のご案内

テ ー マ : 「日本史・日本文化の新しい常識」		各回テーマ、講義内容	講師名、専門分野
第一回	11/12 (土) 14:00 ～ 15:30	<p>「〈聖徳太子〉は実在したか -古代史の「新常識」をいくつか-」</p> <p>日本史の教科書から聖徳太子という名が消え、その実在を否定する人さえいます。かつて「群れな(607)して見る法隆寺」と覚えた年号も、今や教科書に載っていません。しかし「新常識」のほうに、かえって問題ある点も見られるようです。一体どういうことになっていて、どう受け止めればよいのか、それを考えます。</p>	<p>湯浅吉美 埼玉学園大学人間学部教授 博士(史学) 専門: 古代中世に亘る日本文化史</p>
第二回	11/19 (土) 14:00 ～ 15:30	<p>「源頼政、平清盛に挑む -『平家物語』の真相を探る-」</p> <p>1180年(治承4年)、源頼政は以仁王とともに平家討伐の兵を挙げます。すでに出家していた77歳の頼政が挙兵した理由は謎とされ、『平家物語』では平宗盛への私怨であったように描かれますが、最近の研究では、政治状況との関連から捉え直すべきとの見解が出ています。頼政が自らの歌集にこめた思いから真相に迫ります。</p>	<p>中村 文 埼玉学園大学人間学部教授 博士(文学) 専門:日本文学 特に平安・鎌倉期の 和歌文学・散文作品</p>
第三回	11/26 (土) 14:00 ～ 15:30	<p>「『徒然草』は〈吉田兼好〉が書いたのか -中世文学史の新しい「常識」-」</p> <p>『徒然草』の作者は「兼好法師」、あるいは吉田兼好(俗名ト部兼好)と言われてきました。しかし、それに関して、吉田、ト部との関係は、後人の捏造であったという説が近年提出され、評判を呼んでいます。ここでは、その説を紹介検討しつつ、それを踏まえて『徒然草』を改めて読み直してみたいと考えています。</p>	<p>山部和喜 埼玉学園大学人間学部教授 専門:日本古典文学 特に、院政期から中世に かけての説話文学</p>
第四回	12/3 (土) 14:00 ～ 15:30	<p>「西郷隆盛は西南戦争の首領か -近代日本に見る人物たちの実像-」</p> <p>歴史の検定教科書において、西郷隆盛は西南戦争での首領と記述されています。「事実」としてそれは間違っていないですが、そこから導かれる西郷のイメージは果たして彼の「実像」を捉えているのか。講座では、西郷をはじめ近代日本史に登場する人物をいくつか取り上げ、「事実」と「実像」のズレを検証し、歴史の「真実」に迫っていきます。</p>	<p>福島良一 埼玉学園大学人間学部教授 専門:日本近現代史 特に、近代日本の知識人と 戦争をテーマ</p>

場 所 : 埼玉学園大学 405教室

受 講 料 : 無料

定 員 : 100名

定員超過の場合は抽選により決定します。(11月9日までに通知します。)

申込締切日 : 平成28年11月2日

申込方法 : ①Eメール、②ファクス(下記の申込欄をご利用ください)

記載事項 : ①氏名、②職業、③年齢、④住所、⑤電話・Eメールアドレス

なお、お送りいただいた個人情報、公開講座以外に使用いたしません。

申し込み先 : 埼玉学園大学 エクステンションセンター 公開講座受付係

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1510

TEL : 048-294-2111 FAX : 048-294-0294

E-mail : extension@saigaku.ac.jp

申込欄

氏名 :	職業 :	年齢 :
住所 :		
電話番号 :	Eメールアドレス :	